

## 小規模事業者経済動向調査報告書（要約版）から

### ◎平成 30 年 7 月～9 月の D I 及び前期（平成 30 年 4 月～6 月）との比較

**製造業**：「売上（加工）額」及び「採算（経常利益）」の項目がマイナスの D I を示しているものの他の項目はプラスマイナス 0 を示している。更に、前期との比較をみても、「好転」の判断が 5 項目中 4 項目あり、厳しいながらも若干の改善の兆しもみられる。

但し、「採算（経常利益）」の項目が「大幅悪化」の判断を示しており、他の 4 項目の好転判断が利益の改善に結びついていない。原材料価格の高止まりや取引条件の悪化などの影響が懸念される。

**建設業**：マイナスの D I を示しているのは、「採算（経常利益）」の項目のみであり、「受注（新規契約工事）額」においては、プラス幅が大きく増加している。景況判断もほぼ「大幅好転」及び「好転」を示しており、業界全体として景況感は好転している。

一方で、「採算（経常利益）」の項目は、「大幅好転」の判断を示しているものの D I 値はマイナスであり、材料価格の上昇や下請け単価の上昇の影響が考えられる。また、工事の遂行に際して人手不足を懸念する声が出ている。

**小売業**：全ての項目が前期と同様にマイナスの D I である。また、景況判断は「横ばい」「好転」「悪化」がほぼ同数であり、全体として前期と同じような景況感が伺える。「売上額」が「横ばい」を維持している要因として、「客数」の減少を「客単価」アップで対応している様子が見て取れる。

**サービス業**：小売業と同様に前期に引き続いて全ての項目がマイナスの D I である。更に、「客単価」を除く項目が「悪化」の判断を示すなど、業界全体として徐々に景況感が厳しさを増している。前々期までは、他の業種と比較して底堅い景況判断で推移してきたが、ここへ来て厳しい兆しがみられる。